

松嶋夜話 卷之下 54

〔原文〕歸寺日落棠山

〔訓読〕寺に歸する日、棠山に落つ

〔原文〕念四日念五日

〔訓読〕念四日、念五日

〔原文〕目法式飾戒壇

〔訓読〕法式を目て戒壇を飾り

〔原文〕莊公座授戒

〔訓読〕公座を莊にし授戒す

〔原文〕授菩薩大戒

〔訓読〕菩薩の大戒を授く

〔原文〕記之遠近四方遠來登戒壇

〔訓読〕之を記するに、遠近の四方、遠く來り

〔原文〕受戒牒者一千一百六十四人

〔訓読〕戒を受ける者一千一百六十四人

〔原文〕連戒筵來朝于庭者不知幾千人矣

〔訓読〕戒筵に連なり庭に來朝する者、幾千人を知らず

〔原文〕雙月而戒壇止

〔訓読〕雙月戒壇止む

〔原文〕此日黎庶曳大石塔一本來

〔訓読〕此日、黎庶大石塔一本を曳き來る

※黎庶…多くの民。『無量寿經』上に「不請の法をもつて、諸もろの黎庶に施す」（聖典一・二一七／浄全一・三）とあり、吉蔵は『無量寿經義疏』でこれを釈して「黎の言は民なり、庶の言は衆なり」（浄全五・六三下／正蔵三七・一二〇上）とする。これに従えば黎庶は民衆の意味となる。

〔原文〕請書授戒證明之記

〔訓読〕授戒證明の記を書せんことを請ふ

〔原文〕余執筆記曰

〔訓読〕余筆を執りて記して曰はく

〔原文〕登戒壇者千有餘人

〔訓読〕戒壇に登る者千有餘人

〔原文〕本然清淨

〔訓読〕本然として清淨

〔原文〕因甚惹塵

〔訓読〕甚しきに因つて塵を惹く

〔原文〕記年月許石刻矣

〔訓読〕年月を記し、石刻を許す